



撮影：松村芳治

鳴尾エリアマネジメント連絡会の地域活性化への取り組みが評価され、2022年度グッドデザイン賞を受賞！

学校法人武庫川学院と阪神電気鉄道(株)、鳴尾エリアマネジメント連絡会が、「武庫女ステーションキャンパスと鳴尾エリアマネジメント連絡会」の取り組みにおいて、2022年度のグッドデザイン賞(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。今後も、鳴尾エリアの活性化に向けて、地域と連携して取り組んでまいります。



GOOD DESIGN AWARD 2022

鳴尾インフォメーション

INFO 01

武庫川団地「赤胴車のある広場」で開催！赤胴車マルシェ

10月23日(日) 11:00~16:00 **雨天決行**



関西で人気のハンドメイド作家が大集合！マルシェでお馴染みのペーカリーやキッチンカーのほか、今回は地方の名産品や阪神甲子園球場名物グルメの販売もあります。また、「メルカードこどもフェスタ」、「高須フリーマーケット」が同日開催。お楽しみいっぱい武庫川団地に、ぜひお越しください。

開催場所 武庫川団地「赤胴車のある広場」

INFO 02

鳴尾・武庫川女子大前駅 駅前公園 「みんなのちっちゃなアートボックス」の第4弾はハンドメイドと海外研修がテーマの作品群



第4弾は武庫川女子大学生生活環境学科の山本教授や海外研修に参加した学生が手作りしたキルト作品や水引細工などを展示。「海外ではクオリティに関わらずハンドメイドは尊重されます。『映え』という言葉が定着し、気軽に作品を発信しづらい風潮がある日本で、今一度ものづくりについて考えるための展示です」と山本教授は語ります。



キルト作品と水引細工

イベントの詳細・お問い合わせ先等は、二次元コードから各イベントのWEBページをご覧ください。 **！** 新型コロナウイルスの感染状況によってはイベントが中止、開催内容が変更になる場合がございます。

ランチ 第5回 どこ行く？



ピザ・イタリアン
Pizzeria da Torachici



私たちが取材しました！



(左から)武庫川女子大学 学生広報スタッフ La chouette* 背川さん、栗田さん、西さん、中村さん

阪神甲子園球場に近いピザ屋「Pizzeria da Torachici (ピッツェリア ダトラキチ)」。女性に人気のピザ「クワトロフォルマッジ」1,760円は4種類のチーズそれぞれの味を楽しむことができ、セットのハチミツをかけるとチーズの塩気とハチミツの甘みがマッチして違う魅力が味わえる。お好きなピザにサラダとドリンクが付いた「ピッツァランチ」、前菜とデザートとドリンクが付いた「Torachiciランチ」

も大人気だ。皆さんが気になっているであろう店名「トラキチ」の由来は、看板にヒントがある。よく見てみるとネコがピザを回している姿が…。オーナーの実家のネコがモチーフで「ネコ(トラキチ)のように皆に愛される店にしたい」という思いから「トラキチ」となったそう。その名の通り、女性や家族連れ、阪神ファンなど老若男女が訪れるオシャレで居心地の良いお店だ。

読者サービス！ 「なるお通信」をご提示いただくと「クワトロフォルマッジ」1,760円を1,430円でご提供。 ※店内利用に限ります(2023年3月末まで)

Pizzeria da Torachici (ピッツェリア ダトラキチ)
西宮市甲子園引町2-27 TEL.0798-46-1430
【営業時間】11:30~15:00(LO14:00)、17:30~22:00(LO21:00) / 火曜休、月1回不定休あり



なるお通信 配布場所
阪神電車各駅、武庫川女子大学、Lavy's Café、知るカフェみなと銀行武庫川女子大学店、みなと銀行鳴尾支店、ライブ阪神鳴尾店、西宮市鳴尾支所・高須分室、なるお会館 ほか
(配布にご協力いただける場合は阪神ステーションネットまでご連絡ください。)

なるお通信 Vol.5 (2022年秋号)
発行 鳴尾エリアマネジメント連絡会 (株)エンリッシュン/(株)阪神ステーションネット/阪神電気鉄道(株)/(株)みなと銀行/学校法人武庫川学院/(株)ライフコーポレーション/(株)ライフコーポレーション(50音順)
制作 (株)阪神ステーションネット 大阪府福島区海老江1-1-31 ☎06-6347-6601
※なるお通信に関するお問い合わせ・情報提供は阪神ステーションネットまで。
※記載の価格には消費税が含まれています。

NARUO TSU-SHIN

※なるお通信のバックナンバーをご覧いただけます。

Mukojoがある街を知る

NARUO TSU-SHIN

なるお通信

GOOD DESIGN AWARD 2022年度受賞

地域活性化への取り組み
「武庫女ステーションキャンパスと鳴尾エリアマネジメント連絡会」
詳しくは、裏面へ！

Vol. 05

TAKE FREE

「地域を知ること」から防災を始めよう



※撮影時のみマスクを外しています。

日本に住んでいると、地震や台風などの自然災害と常に隣り合わせです。いざというときに、自分や家族の命を守るためにはどうすれば良いのでしょうか。2022年3月に、自分たちの住む地域に特化した防災ガイドブックを発行した「樹のまち自主防災会」の皆さんや西宮市の地域防災支援課に、地域の防災力を高めるためにできることを伺いました。この機会に防災について改めて考えてみませんか。

女子総合大学で学生数日本一 Mukojoがある街を知る

なるお通信とは…

鳴尾エリアマネジメント連絡会が発行する、鳴尾に住む人も、住んでいない人も、思わず出かけたくなる鳴尾の魅力を発信するミニコミ誌



「地域を知ること」から防災を始めよう



樹のまち自主防災会の島田さん(写真右から3番目)と長久さん(写真右端)

オリジナルの防災ガイドブックで地域の防災力を高める!

自然災害に備えて地域の防災力向上を目的に活動している「樹のまち自主防災会」。2022年3月に、鳴尾地域の中でも高須地区に特化した防災ガイドブックを発行しました。会長の島田さんは「西宮市さんから作成の提案があり、二つ返事で引き受けました。こだわったのは地域性と手取りやすさです。高層住宅が多い高須地区で想定される災害、それに対する避難行動、備蓄品リストなどをカラーでわかりやすく



毎年11月に行われる防災訓練の様子。担架やAEDなど普段触れない防災資機材を扱う貴重な体験には、毎回たくさんの住民が参加します。

伝え、いつでも手に取って読めるように冊子の紙質やサイズまで考慮しました」。完成した防災ガイドブックは、樹のまち住民のためのきめ細かな内容になりました。実際に、若い世代の住民からも「樹のまちに特化した冊子で驚いた」「常に見える場所に置いています」と嬉しい反応があったと言います。

「樹のまち自主防災会」の活動は、防災訓練の実施や防災資機材の点検、備蓄品の販売会、介助が必要な高齢者宅への訪問などさまざま。副会長の長久さんは「まずは私たちが楽しく活動することが大切です。そうすれば参加する住民の数も増えて、交流が生まれ、地域の防災力がより高まるでしょう。それに皆さんからの反応が私たちのやりがいなんです」と、活動を続ける理由を教えてくださいました。いざというときに大切なのは、自分の身を自分で守る自助力や地域で助け合う共助力です。自助力・共助力を高め、地域を知るためにも、地域の防災イベントに、参加してみませんか。



「樹のまち自主防災会」が発行した防災ガイドブック



樹のまち自主防災会

2017年、武庫川団地の13~16号棟で構成される樹のまちから有志が集まり結成。「自分たちの地域は自分たちで守る」をコンセプトに、地域の防災力向上を目的とした活動を行っている。

海拔が低い地域で必要な災害への備えとは？

POINT.1

水害からの避難方法を考えておこう

鳴尾のように海拔が低い地域は川の洪水や高潮などによる浸水が想定されます。自宅の構造や階数によって、立ち退き避難・垂直避難・在宅避難と対策が異なるため、水害時の避難行動を調べておきましょう。



POINT.2

長期戦に耐えられる備蓄を

水が引きにくい地域では、3日以上滞水する可能性があります。また、高層住宅の場合は停電でエレベーターが止まることも。長期間自宅で救助を待つ可能性もあるので、水・食料・簡易トイレなどの備蓄を心がけましょう。



POINT.3

顔の見える関係づくりが大切

高齢者が多い地域だと、避難に時間がかかり支援が必要な方が多いと思われる。日頃から近隣の方とコミュニケーションを取り、助け合える関係を築くことが大切です。



教えてくれた人

西宮市 総務局危機管理室
地域防災支援課
中尾 篤也さん

防災講座の実施や各メディアでの情報発信、自主防災会との連携など、市民の防災意識を向上させる活動を行っている。

どんな災害リスクがあるか知るには

兵庫県CGハザードマップ



武庫女の先生に聞く interview

長年、鳴尾地区を見てきた建築学部教授の田川先生に、南海トラフ地震の被害想定や、防災インフラの整備における美観への影響について教えていただきました。



武庫川女子大学
田川 浩之 先生
建築学部教授
博士(Ph.D.)
建築構造デザイン、耐震設計について研究。大学の授業では、伝統木造建築の載荷実験なども行っている。

「防災で変遷する鳴尾の風景」

人の暮らしを守りながら美観にも考慮する防災インフラとは

今後30年以内の発生確率が70~80%とされる南海トラフ地震は、海洋プレートの沈み込みに伴い、引きずり込まれた大陸プレートの跳ね返りにより発生する海溝型地震です。鳴尾地域でも、最大震度6弱の揺れと、津波の到来が想定されています。

防災のためのインフラの整備が重要であるとともに、それらがまちの美観や暮らしやすさにも寄与することが望まれます。鳴尾浜には、海越しに六甲山脈が一望できる美しい景観があります。[写真1]は、昭和56年に、当時住んでいた武庫川団地の最上階に上がり撮影したものです。高須西小学校の裏には小さいながらも砂浜がありました。現在は、消波ブロックで埋め尽くされています。

簡単! 防災クッキング



ポリ袋で作る「ふんわり蒸しパン」

簡単に調理ができる「ふんわり蒸しパン」は災害時にも大活躍。材料や調理器具が少ないので洗い物も減らせて、沸かしたお湯も再利用できます。水の代わりに野菜ジュースや缶コーヒーを使ったり、お好みでコーンやドライフルーツ、ナッツ類を加えたり、アレンジも簡単です。

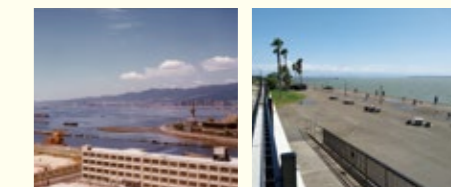
- [1人前]
- 材料
- ホットケーキミックス…50g
 - 水…50ml
 - 砂糖…大さじ1(お好みで)

- 作り方
- 1 湯煎調理に適した耐熱性のポリ袋に材料をすべて入れて、袋の上からこねて混ぜる。
 - 2 ポリ袋の空気をできるだけ抜き、袋の口を結ぶ(あれば輪ゴムで留める)。
 - 3 皿を敷いた鍋にポリ袋が浸かる程度の水を張り、②を並べて、蓋をして火をつける。
 - 4 沸騰後、弱火〜中火で20分加熱。火を止めて余熱を5分加えて完成。

情報提供: NPO法人 a little
<https://alittle.sakura.ne.jp/wp/>



鳴尾浜臨海公園にある芝生広場は、寝転んでも海が見える公園として整備されました。ただし、平成30年の台風21号による大規模な高潮被害により防潮堤を80cmかさ上げしたため、立ち上がらないと海が見えない状況となってしまいました。一方、隣接する海づり広場[写真2]は、岸壁から防潮堤までの奥行きがあり、家族でも釣りや散歩などが楽しめるように整備され、防災を考えた親水空間の好例といえるでしょう。



[写真1]武庫川団地最上階 [写真2]鳴尾浜臨海公園からの風景(昭和56年8月撮影) 海づり広場(令和4年8月撮影)